

(6月29日のイベントの第1部 視聴したDVD「目撃につぼん！」の概要)

出典 goo wikipedia

目撃につぼん！高校生が選ぶ“日本の未来”～憲法改正の模擬投票～

今、日本の未来を担う若い世代が日本国憲法の改正について賛否を議論し、模擬の国民投票を行おうとしている。準備を進めるなかで憲法に無関心だった学生たちに変化が見られ、自ら思考し、周囲の大人たちにその変化が伝播していった。

昨年5月、高校生たちによる憲法改正の模擬国民投票がスタート。発起人は愛知県の高校3年生、18歳のリンダさんで、柔道部に所属している。また、愛知県高校生フェスティバル実行委員会のメンバーにも名を連ねていて、高校生たちは被災地でのボランティア活動などテーマを決めて社会問題に取り組んできた。2018年のテーマは「憲法9条改正」で、憲法9条に自衛隊を明記する改正案について、模擬投票を実施することとなった。委員長を務めるリンダさんは紛争地をカメラに収めてきた安田菜津紀さんの講演を聴き、無関心から目を向けることにしたという。

リンダさんが通学する高校では憲法9条を考える授業が行われた。改正賛成派の主張は「国際的な安全保障を巡る環境が変わっている」、「自衛隊の位置づけを明確にすべき」、反対派の主張として「自衛隊は明記しなくても定着している」、「9条は平和憲法の最も大事な条文」などが挙げられる。

生徒たちは賛成、反対に分かれ、議論をスタート。模擬投票に参加する学校の1つ、南



山高等学校では与党、野党のみならず、学者や無関心の市民など実際の社会における様々な立場をグループ分けにした。無関心な市民チームの亀田さんらは憲法に無関心な人がいるのは何故か、思案することにしたが、これまでに憲法に無関心だった自分自身と直面することとなった。別のマスコミチームは各チームの代表者にインタビューし、諸外国のメディアが日本の憲法をめぐる議論をどう報じているのかりサーチした。

模擬投票には約8000人が参加するまでになったなか、リンダさんの学校では知ることがかえって悩みが複雑化するという生徒がいた。自衛隊員を兄に持つ音子さんは賛成派、反対派の立場にも納得できる側面があると語った。



野球部に所属する一気さんは「反対派の意見には共通点があるが、賛成派の意見は多種多様」と語り、反対の立場から揺らいでいた。

無関心な市民チームの亀田さんらを始め、様々なチームのメンバーが放課後に集まり、様々な意見を話し合っていた。

リンダさんの通う学校では、模擬投票をやるかどうかは各生徒に一任されていたが、リ

リダさんは一人でも多くの人に投票して貰いたいと呼びかけを行った。そのリダさんはフィジー出身の父親、日本人の母親、弟を持ち、憲法について意見を尋ねた。お母さんは「憲法 9 条が改正されることで自分たちにどのような不利益があるのか、どういふふうになるのか分からない」と話した。

南山中学校・高等学校では各チームが発表することとなり、マスコミチームは諸外国のメディアが日本の改憲論議をどう報じているのか、要旨を発表した。無関心チームは各チームから意見が出されるなかで推敲を重ねた末、亀田さんは「知ることが関心を持つ第一歩になる」と発表した。

リダさんの学校でも模擬投票が行われ、自衛隊員の兄を持つ音子さんは迷った末、反対派に投票した。野球部の一気さんは賛成に投票し、「アメリカとの交流関係を深くするためにも賛成かなと思った」とコメント。中間集計の結果、投票した 7702 人のうち、賛成は 2009 票、反対は 5404 票だった。

現在、自分たちの高校でも模擬投票をやりたいという声があり、プロジェクトは続いている。リダさんは「いろんな世界を見ながら、自分が何をしたいのかっていうのを吟味していこうかなと思う」と語った。

2 月 3 日、亀田さんは父親とともに愛知県知事選挙の投票所を訪れ、投票した。

